

平成 29 年 8 月 25 日、26 日と「第 65 回日本 PTA 全国研究大会 仙台大会」に参加してきましたので、大会内容をご報告します。

この大会は、「つながろう PTA！子どもたちの輝く未来のために ～杜の都発！みちのくの今を伝えたい 感謝の思いと確かな歩みとともに～」を大会スローガンに、全国の PTA 会員が集まりました。

初日は 13 時より分科会がありましたので、早朝より空路にて仙台へ向かいました。

分科会は市内 10 会場に分かれており、それぞれ異なるテーマで基調講演などが行われていましたが、私は「特別第 1 分科会」に参加して来ました。

8 月 25 日 金曜日

特別第 1 分科会 「いじめ」何が起きているかを知る

会場 仙台サンプラザホール

【現状と課題】

社会環境の変化や SNS 等の浸透によって現代のいじめは多種多様になっている。意識する、しないに関わらずいつの間にかいじめに発展してしまうケースも見られる。また「いじめる側」と「いじめられる側」が瞬時に入れ替わることがあり、大人から見えないところで起こっているのも特徴。世の中からいじめを減らしていくことは重要で、悲しい出来事を繰り返したくない。

まずは、「何が起きているのか」をきちんと知ることが重要。ひたすらに芽を摘むためのモグラたたきに徹するのではなく、いろいろな角度からの目で状況をよく知り、「何が原因で」「どんなことが発生しているか」を正確に知ることが大事。



【基調講演】

子どもたちの豊かな心を育み、いじめが止まりやすい社会をめざして

～今、私たちにできること～

森田 洋司 氏 国立大学法人 鳴門教育大学特任教授

いじめをテーマとした講演となると、過去の経験や自分の身近な人の体験などが題材となり、多少、講演内容が重たくなることがあると思います。しかし、今回の基調講演では「いじめ」について長年のデータから科学的に分析して「いじめ」が発生するメカニズムや、「いじめ」の法的な定義まで幅広い内容をお話していただきました。印象的だったのは、大人の社会に「いじめ」があるから、子供の社会にも「いじめ」があるということ。また、「いじめ」は根絶できないが、止めることはできるということ。これらを踏まえていろいろなお話を聞かせていただきました。改めて今の子供たちにとって、「いじめ」が私たち大人が思っているより大きな問題であると実感させられました。

今回の講演で講師をしていただいた森田洋司氏は、名古屋生まれですが小学校から奈良で育ったせいか、関西弁での熱い語り口調が心に響く講演でした。

【パネルディスカッション】

基調講演の後は、ちょっとした寸劇をもとにパネルディスカッションが行われました。寸劇は「いじめ」に関する 3 つのテーマをもとに構成されていて、テーマごとにパネラーからご意見が飛び交いました。

テーマ①いじめを知る

設定は、部活の先輩からいじめを受けているが、親に相談できず自宅に引きこもり状態になっている女子高生の母親。その母親へ、いじめを受けている娘の友人から一本の電話があり、初めて自分の子供がいじめにあっていることを知る。自分の子供がいじめにあっている知ったとき、親としてどう対応すればよいか、意見が分かれるところでした。

テーマ②解決

悩んだ挙句、母親は担任へ相談し、学校全体でいじめについて真剣に取り組んでいく。ここでのポイントは、担任だけに抱え込ませないこと。また、助けてほしい気持ちが言えないもどかしさを抱える子供に、大人としてどう接していくのか、親としてどこまで踏み込めるかが焦点でした。

テーマ③防ぐ

いじめによる悲劇を防ぐためには、人間関係の構築が最も大切であり、今回の例もかけがえのない友人からの電話で解決しました。いじめは実際に起こってからでないと、その事実を把握することは困難ですが、子供の様子からある程度は察知できることもあります。これから子供たちをどのように見ていくのか、いろいろな意見が交わされました。

この寸劇の構成は、実はパネラーのうち一人の方の実体験が元になっているということでした。親として、自分の子供がいじめにあっていると知ったとき、自分はどのように行動できるのか。また、いじめられていると聞かされたとき、どのように行動すればよいか、いろいろ考えさせられたディスカッションとなりました。

8月26日土曜日

全大会

会場 カメイアリーナ仙台（仙台体育館）

二日目の全大会は夜中から降り続く雨が心配でしたが、ホテルを出るところには止んでくれました。

仙台駅から地下鉄で行きましたが、現地へ着くとさすがに7,400名が集まるだけあって、会場内はたくさんの方で埋め尽くされていました。

全国から集まる大会のため、各地域ごとに席が決まっていますが、座る場所によっては目の前にカメラ席があって舞台が見えないところもあり、その辺りはもう少し配慮が必要だと思いました。

会場へ入ると、歓迎アトラクションとして「伊達武将隊」によるおもてなし寸劇や、仙台すずめ踊りを披露していただきました。



【記念講演】

オリンピックへの挑戦 ～家族の絆で掴んだ父娘メダル～

講師

リオデジャネイロオリンピック銀メダリスト 三宅 広美 氏

日本ウェイトリフティング協会会長 三宅 義行 氏

MC

フリーパーソナリティ 庄司 由加 氏

日本の裏側で熱い戦いが繰り広げられたリオデジャネイロオリンピックですが、そのリオデジャネイロオリンピックのウェイトリフティングで銀メダルを獲得した三宅宏美さん、父であり監督でもある三宅義行氏を講師に迎えて、オリンピックでメダルを掴むことの大変さ、また、そこに至るまでの家族の絆についてお話していただきました。

MCである庄司氏からの質問に答える形式でしたが、いろいろ語られる中で、義行氏は監督として、また、女性アスリートとしてどのように宏美さんに接していけばよいか悩んだそうです。また、ピアノの教室を開いていた母親は、宏美さんをピアノの道に進ませたかったようですが、オリンピックでメダルを獲得することを決断した宏美さんを見て、食事のサポートをするためにピアノ教室を閉めてまで栄養学を学んでいたそうです。

お兄さんもウェイトリフティングの選手だったため、いろいろと相談にのってもらったということで、本当に家族が一体となってメダル獲得に向かっていただんだと思いました。

何よりも、家族の中で挨拶などのコミュニケーションが一番大切だと義行氏は言われていました。そして、子供たちと接するためには、上から見るのではなく、同じ目線で一緒に悩み考えることが必要だという言葉にとっても共感できました。

今回の研究大会ではPTAとして、また一人の親として、これから成長していく子供たちとどう過ごしていくか、とても考えさせられるものでした。今回の研究大会を参考に、今後の活動に生かしていきたいと思います。

来年度は、新潟県で開催されることが決まっています。PR映像ではかなり大きな規模の大会が予想されますが、分科会の会場の一つに佐渡島で開催というのが気になりました。まだ未踏の地でもある佐渡島。来年度も参加してみたいとちょっと思いました。



伊達武将隊



仙台すずめ踊り

堺市PTA協議会 理事 植木 聡